

# (地域密着型) 特別養護老人ホーム櫻ホーム西神

## (認知症対応型通所介護) デイサービスセンターさくらさく

### 令和7年度 第3回運営推進会議 議事録

日 時：令和 7年 8月 21日 (木)

時 間：10:00～11:00

開催場所：櫻ホーム西神 4F 多目的室

出席者：別紙参照

#### 1 自己紹介・あいさつ

(1) 出席者と参加者の自己紹介

(2) 施設長挨拶：本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。気温も高く外出も難しい時期ではありますが、地域のイベントにも参加させていただき、ご入居者も喜ばれておりました。昨年は夏祭りを開催しましたが、今年は秋祭りとして11月に開催させていただきます。昨年と同じ規模での開催を考えておりますので、地域の方のご協力をお願いいたします。地域の方、ご入居者、ご家族、スタッフも共に楽しめるイベントにしていきたいと思っています。

#### 2 事業運営に係るご報告

以下、別紙（令和7年度第3回運営推進会議櫻ホーム西神）をもとに説明を行った。

##### (1) (地域密着型) 特別養護老人ホーム櫻ホーム西神

① 稼働率 (P4)

資料に沿って現状の説明を行う。

ユニット型 6月 97.38%、7月 95.44%。地域密着型 6月 96.00%、7月 99.19%。合算 6月 97.23%、7月 96.23%。ショート合算 6月 98.28%、7月 97.94%。

空床ショート利用率 6月 50.79% 7月 46.90%と目標達成できている。

② ご入居者の概要 (P5～6)

資料に沿って説明を行う。

地域別では、地域密着型は神戸市在住の方のみとなっている。ユニット型は神戸市の方が7割近くを占め、次いで三木市となっている。平均介護度はユニット 3.83、多床室 3.50 となっている。介護1の方が3名おられるが、自宅を処分している等の事情で特例入居となっている。平均年齢はユニット 87.8歳、多床室 85.4歳となっている。

入居申し込み状況 (P7)

資料に沿って説明を行う。

7月31日で、ユニット型 8名、地域密着型 5名の待機者となっているが、8月21日現在の待機者は1名になっている。待機者獲得に苦戦している。特にユニットに空きがある。

③ 入院者状況 (P8)

資料に沿って説明を行う。

6月 4名、7月 3名の入院があった。入院となった原因を検討し、早期発見に努める。

## 対策について（P9～11）

資料に沿って説明を行う

4つの予防策を実施している。

### 1) 誤嚥性肺炎予防

歯科往診で、歯科医師と連携している。

精神科薬服用者をリストアップし、特に注意している。

### 2) 尿路感染予防

職員の意識を高め、1日 1200 cc を目標に水分補給を促している。

(P10) 水分摂取量のデータを 2 月から取り始めている。施設全体で 1051 cc 摂取できている。データを取り始めてから職員の意識が高まり、徐々に摂取量が上がってきている。

(P11) 取り組みの内容について説明する。入力漏れがあることが課題となっている。

### 3) ウイルス感染予防

8月になりコロナも広がり始め、他施設でもクラスターになっている。

8月はイベントが多く感染リスクも高まるので注意していく。

### 4) 転倒予防

精神科薬服用者をリストアップし、特に注意している。

## ④ 職員の動向（P12）

資料に沿って説明を行う。

6月、退職者 1 名（介護 準正規）入職者 2 名（1名 介護 正規職員、1名 赤穂より介護福祉士資格を持つベトナム人が移動になる）現在 4 名のベトナム人が在籍している。

7月、入職者 1 名（運転手兼介護 パート）8月、入職者 2 名（須磨ノ浦高校の学生アルバイト）

## ⑤ 事故・苦情の発生状況と詳細（P13～18）

資料に沿って説明を行う。

(P13) 6月、転倒・転落が一番多い。加齢による身体機能の低下、運動不足、病気及び薬の影響、視覚・聴覚の低下、睡眠の質の低下等の原因が考えられる。二番目に落葉が多い。服薬確認ができるいないことが原因。（職員要因）

(P14) 6月事故件数 21 件、ヒヤリは 12 件となっている。事故の 1 例を挙げ原因と対策について、資料に沿って説明を行う。

(P15) 7月、6月と同じように転倒・転落が一番多い。

(P16) 7月事故件数 24 件、ヒヤリは 4 件となっている。事故の 1 例を挙げる。新入居の場合、ご本人の状態を把握するまでに時間がかかるため、多職種での話し合い、情報共有が必要。

(P17) 6月に苦情 1 件あった。最短での解決に向け、多職種連携ケアの見直しを行う。

(P18) ご家族交えてのカンファレンスを行い、ご家族の思いを聞き取り、介護士がご家族と共にケア表を作成する。その後は、面会時に「良くしていただいて、ありがとうございます。」と言っていただけるようになった。「苦情」と言うとマイナスイメージがあるが、職員にとってもケアを見直す良い機会となった。

## ⑥ イベント内容報告（P19～22）

写真で紹介する。

(P19) モモユニット家族会の様子を報告。前職が板前だった職員が、てんぷらメインのコース料理でご家族をおもてなし。コロナ禍もあり、ご家族との関りを持つ機会が少なかったが、今年度はご家族との関りを持つことを目標に、各ユニットでの家族会を開催する。

「また一緒に食事ができるとは思っていなかった。」など、ご家族にも喜んでいただけた。

(P20) アジサイユニット家族会の様子を報告。ご入居者と共にパフェ作りをする。ご飯が進まない方もたくさん召し上がられ、喜んでいただけた。

(P21) 月が丘の夏祭りの様子を報告。地域との関係性を大切に、今後も関わらせていただきたいと思っている。

(P22) ボランティア団体「海風」による沖縄エイサーの様子を報告。感動して涙を流される方、踊って楽しむ方もいて喜んでいただけた。

⑦ 研修・委員会活動 (P23)

資料に沿って説明を行う。

ブルーコール（ご入居者急変時に行う一斉放送）の研修を行った。全職員が体験し緊急時対応を確認した。

⑧ その他 (P24)

介護保険外サービス費用について

居住費、食費、理美容代について変更なし。

(2) デイサービスセンターさくらさく (P25~32)

資料に沿って、以下の内容を報告する。

① 利用状況 (P26)

登録者数は 28 名（男性 10 名、女性 18 名）、平均介護度は 2.0、平均年齢は 83 歳となっている。

② ご利用者概要について (P27)

表を用いて地区別、回数別、要介護度別の利用状況を説明する。地区では押部谷が多く、回数は週 2 回利用が多く、次いで週 3 回。要介護度は 1 の方が多く、次いで要介護度 3 となっている。要介護 5 の方の利用はない。

③ 稼働率について (P28)

目標 75% に対して、6 月 93.7%、7 月 92.6%。4 月～7 月全て目標を達成している。8 月に独居の方が転倒、入院となり在宅生活の継続が難しく、利用中止になった。登録者数が一人減ると稼働率に影響することが課題となっている。

④ 事故の発生・苦情状況と詳細 (P29)

6 月 2 件のヒヤリ、7 月 1 件の事故と 1 件のヒヤリがあった。事故の内容として、職員が椅子を動かした時に、ご利用者の手の甲を挟み 1 cm の内出血となった。対策として、椅子を動かす際には声掛けし、十分に注意して行う。

⑤ イベントと活動内容報告 (P30)

写真で紹介する。

おやつ作り、野菜の収穫、うちわ作りなどの様子を紹介する。沖縄エイサーの演奏も聴けた。

⑥ 認知症カフェの開催・地域活動 (P31)

6 月・7 月開催の内容を紹介する。月が丘福祉センターをお借りして開催し、大勢の方に来ていただけた。

次回 8 月 22 日（金）は櫻ホーム西神で開催。熱中症対策をテーマに行う。

⑦ その他 (P32)

介護保険外サービス費用について、変更なし。

### 3 その他（質疑応答）

(1) A 委員：苦情について。ご家族によっては厳しい口調で言われる方もいて、本当にいけなかつたのか？と思われることもあると思う。ご家族はご本人のことをよくわかっているという前提で話されるので、ご本人が急がされていると感じたことや、ご本人の言葉遣いがよくない話し方で話されたことが、そのままの伝わり方をしてしまう。いつも面会に来ているご家族ではないご家族からクレームがというのはよくある話。この事例もそういうことかと思う。このように多職種で話し合い、丁寧に対応されたこと、また早期に対応されたことは良かった。

(2) B 委員：入居後に要介護1になった方がいるとのことだが、どのようにADLが上がったのか。特別な対応をしたのか。

【回答】病院から入居される方が多く、入院中の状態は介護4、5だったが、施設入居となることで日常の生活を取り戻し、元の能力に回復している。特別な訓練は行っていないが、日常生活の中でできること、ベッドから車いすへの移乗、トイレに行くこと等を繰り返すこと（生活リハビリ）によって身体機能の維持・向上につながっている。状態が改善することは嬉しいことだが、介護度が下がってしまうと特養は介護3以上の方が入居される施設なので、入居継続できなくなる場合もある。

(3) B 委員：P8 入院者の状況で、退去となっている方がいるが？

【回答】退院後は施設に戻って来ていただくのが基本。ご家族が医療を望まれる場合や治療の継続や頻回な痰吸引が必要な場合は、特養での生活がその方に合っていないため退去となっている。

(4) C 委員：高齢者に水分を摂っていただくために、あの手この手で工夫され、大変だと思う。ご苦労様です。

(5) D 委員：苦情の件で、ちょっとした言葉の取り違えでトラブルになることがあるので、対応に気をつけないといけない。言葉遣いも気を使って、強く言われても我慢して、職員さんの大変さはわかります。ご家族といっしょに行事をすること、いっしょに食べること、いっしょに何かをすることでコミュニケーションがとれお互いの理解ができる。家族会はいい機会だと思うので、これからも続けてほしい。

(6) B 委員：認知症の方がどれだけ長く地域で暮らしていくか。色んな問題があるが、心配し見守ってくれる方もたくさんいる。最後の最後は施設入居していただくことも考えるが、できるだけ自宅で暮らせるよう地域で頑張っていきたい。最近はヘルパーさんも来てもらうことが難しいので、地域としてもデイサービスに行ってもらえると安心できるが、認知症に気付かない、認めたくない方はデイに行かない。そういう方をどうやってお連れするかが課題となっている。

【回答】地域でお困りのケースがあればご相談ください。認知症カフェに来ていただいてもいい。いっしょに考えていきます。

(7) B 委員：そういう方たちを地域の課題としてとらえていく。月が丘のふれまちで、仲良しサロンを開催し、認知症の方の楽しみとなっている。自治会では、いきいき体操を開催し、それぞれのポジションでコミュニティを大切にみんなで助け合っている。お互いに役割を担っていくことが大事。月が丘は立派な地域。しかし、施設入居などで住み続けたいが住めなくなったケースが、昨年で10件位あった。

【回答】できるだけ長く地域に住んでいただけるよう協力していきたい。

(8) D 委員：桜が丘でも認知症の方が増えている。ふれまちとして色々なことを考える。コープの中でカフェを始めているが、引きこもりの方は出て来ない。行きたいが足がなくて来ら

れない方もいる。ボランティアでの送迎は本人がいいと言っても、事故があった場合家族とトラブルになるかもしれない。色々問題があってできない。食事の心配もしている。昼は配食があるが、夜はどうしているかなど、どこまで関わっていけばいいのか。こちらからデイを勧めることもしにくいし、どこまで家族と話をしていいのか。どう対応していくべきなのか。地域のためにコープも動いてくれている。コープの集会所で色々始めてくれている。自治会館を開けてもらえるのが理想だが、そこまでの話ができるかわからない。お金もかかる。

【回答】閉じこもりについて、今、地域戦略でどういうふうに力になっていけるか考えているところ。前回、ここまで来られない方もいるのでカフェの出張をした。桜が丘でお役に立てないかご相談したいと思っていた。地域で高齢者をどう支えていくかが、今後クローズアップされていく。9月からは作業療法士の入職も決まっており、専門職が増えることで、地域のお役に立てることが増えると考える。健康や運動目的だけでなく、閉じこもりの方に出てきていただき動いていただけることがテーマ。地域社会との共生、公益的事業の取り組みは法人理念でもある。また改めてご相談させていただきたい。

#### 4 最後に

施設長挨拶：送迎ドライバーを募集しています。地域の方で働いてみたい方がいたらお声掛けください。健康な方であれば年齢は問いません。また、入居待機者が少ないので、施設入居を考えておられる方がいたらご相談いただきたい。今後ともよろしくお願ひいたします。

次回開催予定：令和 7年 10月 16日（木） 10:00～11:00

出席者

(第三者委員)

小川 薫	月が丘自治会 会長
福永 君江	押部谷西民生委員児童委員協議会 会長
納見 年子	桜が丘ふれあいのまちづくり協議会 委員長
後藤 陽子	押部あんしんすこやかセンター

(櫻ホーム西神・デイサービスセンターさくらさく)

福田 庸二	事務局長 (法人本部)
馬場 宏知	総合施設長
内田創一郎	デイサービスセンターさくらさく管理者
田中 雅臣	介護副主任
辻 典子	介護士
松崎 淳子	施設主任介護支援専門員